

風の流氷

◆ 一般投稿作品 ◆

広報委員会 選

我が行くに両手にかかる桜かな
 好天や梅綻びて初音聞く
 転作の畑地飛びかう春ツバメ
 良心市句の露の臺瑞瑞し
 さくら島噴火筒地がひびき
 子を叱る母の憂いや春の雨
 つつがなき暮らしのありて夏の空
 初物のわらび湯がくやひとにぎり
 雛壇のかざりすませばオルゴール
 桃の花わくわくしてなつかしき
 満月の光の中に桜散る
 昼月を宙に浮かせて茶摘みかな
 ゆく春やつひに捨て田となる棚田

◆ かみ野俳句会 ◆

春愁の卓布に残る染み一つ
 蕊残し風の氣ままに舞ふ桜
 里牧場小牛寄り来る花の昼
 花見へと孕寿の蠟紅を引き
 花吹雪ケナフの証状胸に抱き
 橋渡り向かふ故郷花ぐもり
 裾野だけ見せて淋しき春の富士
 在りし母思ひ思ひて木ノ芽和
 閉校にさよならの文字花吹雪
 ぼうたんに雨の洗礼まぬがれず

佐竹 洋子
 鍵山 和枝
 佐藤 幸
 利根 弘子
 古川 信子
 小松 愛子
 中澤 美晴
 森本 健代
 山崎 鈴子
 吉田 芳

◆ 蕪句会 ◆
 老二人あげに腰かけ花の昼
 忍者小屋老式の数字あたたかし
 八重椿不粋な音して落ちにけり
 リヤカーの中の吊り橋藤の花
 世の愚かめまとひ払ひひ言ふ
 花かがり待ちつ身近に鐘の音
 遠蛙掩体壕のうづくまる
 白髪山遠くまぶしや黄砂降る
 無住寺や裏に一と畝葱坊主

◆ かほく俳句会 ◆

家路急ぐ代田代田の夕日かな
 花は葉に加齢いよいよ早かりし
 山門を潜れば牡丹浄土かな
 切干へ水注ぐ富殖やすごと
 一畝に齢の力種を時く
 葱坊主出るや定額給付金
 離農後の年月久し燕来る
 懇に草打ち振ひ畑を打つ
 捨て畑の草に分け入り蕨探る
 轉りを数へる五指に余りけり
 妹の作りし蕪と思ひ買ふ
 抽出の老眼鏡や花月夜
 見直されたる風呂敷や昭和の日
 どの畝も風を真白に花豌豆
 老人と空家ばかりや独活長けて
 しろがねの雨降りやまず苗代田
 夕暮れの空に溶けゆく桐の花
 妹に引く玉葱の出来不出来
 幾つもの田移りをして春の水
 たんぼの黄が通る人とませて

公文 春紀
 岡本かほる
 高橋 章
 北村 幸子
 甲藤 卓雄
 野崎 典子
 北村 里子
 明石 英子
 竹内 ろ草
 乾 真紀子
 奥宮さとみ
 久保 貴女
 久保内鏡子
 黒岩 幸女
 黒岩千英子
 小松志津男
 小松 隆之
 小松 完
 小松 昇
 杉山 春萌
 野村 里史
 前田 欣一
 前田 秀女
 間崎 和代
 森本 之子
 山崎かずみ
 山中 晶子
 山中 瑞輝
 山中 明石

◆ 土佐山田町俳句会 ◆

百年を閉ぢる一人の卒業歌
 花稚や一山全て神の森
 わが山の目印となり桜咲く
 医師の手が伸びて脈とる若葉冷え
 春時雨鹿は一山喰い荒し
 花冷えの罅入り鏡にわれの顔
 墨汁がぼとりと和紙に桜雨
 ぬぎ捨てし衣にみゆる花疲れ
 植林夫昼餉の箸を口で裂く
 新緑へ月曜病を送りだす
 初路を嘔んで身の毒流すなり
 田水張りその夜俄に蛙殖え

◆ 今月のキラリ ◆

花見へと孕寿の蠟紅を引き
 花見へ出かけようと90歳の女性が口紅をひき
 張り切っている様子を詠んだ一句

◆ 俳句・短歌の投稿方法 ◆

▼ 投稿方法は自由。(ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句(首)以内)
 ▼ かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。
 ▼ 俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
 ▼ 誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

〒782-8501 (住所不要) FAX 53-5958
 企画課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係

香美市立美術館

アートの窓



「岩井王山と絵金—岩井王山と絵金のつながりを下絵・白描資料から探る—」 7月7日(火)～8月9日(日)

江戸末期に生まれ、明治・大正時代にかけて活躍した香南市香我美町徳王子の日本画家岩井王山(1859～1933)の資料を、個人コレクションより一堂で紹介する展覧会です。

資料は、岩井王山自身の日本画の模写や下絵、王山保管の絵金に縁のあると思われる貴重なものでした。普段あまり表に出ることのない日本画の模写や下絵、画家が自分の勉強のために収集したと思われる有名画家の模写など、日本画習得の過程を垣間見ることのできる展覧会になります。

香我美町の旧家で発見された日本画家を目指すには、中央の東京や京都などで



岩井王山 孔雀の図

は、有名な先生の門下に入って学び画風を確立していくのでしたが、地方の高知においてはその当時、どのような状況だったのでしょうか。

写真にある作品は、岩井王山の孔雀の図の一部分です。王山は、多数の花鳥・山水・唐子などの模写絵を残していますが、地方の一人の画家が、その時代のさまざまな流派の多様な様式をどのように学び取っていたのか、その過程が残された多くの資料から浮かび上がってきます。

「絵金が王山の先生の一人であった可能性もある」と話す、王山と同郷の村上純一さんの作品収集・研究成果も、今回、会場に並びます。江戸から明治の激動の時代に生きた一人の日本画家が集めた絵の資料は、現在を生きる私たちに多くの事を語ってくれるにちがいありません。

この展覧会をきっかけに、この時代の研究が活発になることを期待しています。

(館長・北 泰子)

歌会始の詠進歌募集

平成22年歌会始の詠進歌を募集します。応募要領は、次のとおりです。

【お題】「光」

(「光」の字を使用していれば、『月光』『光る』なども差し支えありません)

【詠進要領】

詠進歌は、お題を読み込んだ自作の短歌で一人一首とし、未発表のものに限り、用紙は半紙を横長に用い、毛筆で自書してください。病気または、身体に障害のある場合は、この限りではありません。

▼ 注意事項

次の場合は失格です。
 ①お題を読み込んでいない場合 ②短歌の定形でないもの ③一人で2首以上応募した場合 ④詠進歌がすでに発表された短歌と同一または、著しく類似した短歌である場合 ⑤詠進歌を歌会始以前に新聞・雑誌・その他の出版物・年賀状等により発表した場合

【募集期間】9月30日まで

※当日消印有効

〒100-8111 宮内庁
 ※封筒に「詠進歌」と書き添えてください。

【問い合わせ方法】

宮内庁式部職宛に郵便番号・住所氏名を記入のうえ、返信用切手をはった封筒を添えてお問い合わせください。また、詳細については、宮内庁ホームページをご参照ください。

書式 (半紙横長)

お題「光」

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

――《山折り》――

〒 住所

電話番号

氏名(ふりがなをふる)

生年月日

職業

